



地域特性と保健活動の評価に関する研究

保健福祉学部 看護学科
教授 笠置 恵子 (かさぎ けいこ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3422号室
Tel & Fax 0848-60-1277
E-mail kasagi@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 地域保健学 産業保健看護学 疫学 公衆衛生学

キーワード： 肥満 保健活動の評価 保健指導方法論
生活習慣病予防対策 虐待 在宅療養者

● 現在の研究について

地域健康指標の開発：地域の健康度を押し量る指標として、過去によく使用されていた乳児死亡率に代わるものとして研究スタート初期は「平均出生時体重の地域比較」に関する研究を実施してきた。現在は「肥満指標」の有効性を中年女性や学童期を対象に検討している。数ある指標のうちどの測定値が簡便で確実にメタボリックシンドロームの予防に活かせるかを中年女性や学童期、発達障害を伴う児を対象に分析している。

行動変容を伴う保健指導方法の検討：健康改善のための保健指導方法の具体化と行動変容へ結び付ける手法について実施側、実施される側からの問題点の抽出と解決を目指している。

在宅療養者の支援システムの構築：地域で生活する重度在宅障害者の支援体制のための専門職の連携の実際について検討してきた。フォーマルな支援を助けるインフォーマルな支援体制の構築の重要性を明確にし、既存の地区組織活動へ組み入れることができるキーパーソンを育て上げる必要性を事例研究から明確にした。

保健活動の評価：地域で展開される保健活動の評価のために人口学的アプローチや生命表関数特に世代生命表による分析の実施と将来予測への活用。

● 今後進めていきたい研究

1. 働き盛り世代の健康維持に寄与する研究
肥満対策や禁煙対策への継続支援
2. 長期在宅療養者や虐待の早期発見のための支援
3. 島嶼環境や中山間部を有する広島県の地域特性に基づく保健活動への取り組み
4. 職域保健と地域保健の連携に関する研究

● 想定される連携先

1. 企業の健康推進室
2. 訪問看護ステーション
3. 保健所・市町保健センター
4. 学校
5. 地域住民とその団体

● これまでの連携実績

1. 研究費取得による連携
 - 1) 発達障害を伴う児のやせと肥満に関する多面的要因分析 (科研費 H21~23 代表), 県立広島大学重点研究 (H20~21 代表)
 - 2) 中年期女性の肥満に関する分胆研究 (三原市助成研究 H18, 科研費 H16~17)
2. 講演・研修会等による連携
 - 1) 行動変容に資する連携 (H18~H24)
「初回面談に活用できる面接技術の獲得」, 「働き盛り世代への健康教育の手法-特定保健指導の有効なすすめ方」, 「メタボリックシンドローム概念と予防意義」, 「健診結果から自分の体を知る」, 「個別健康支援プログラムの作成」等
 - 2) 高大連携講座・高校出前講座による情報発信
「高校生にも忍び寄る生活習慣病」, 「見なおしてみようあなたの生活習慣」等